

食生活・健康意識・自覚症状における関連性
近大豊岡女短大 山根順子

目的 最近健康にたいする関心は高まっているが、既往症、現在治療を受けている病気などを実態調査により把握したうえで、健康にたいする関心の度数が自覚症状や食物摂取状況にどのようなウエイトをしめているのか、またその特性とはいかなるものであるのかを知る目的で解析を試みた。

方法 調査期日：昭和58年3月

調査対象：兵庫県但馬地域における30代～60代までの主婦を対象

調査内容：YES, NO方式によるアンケート調査 ㊶健康意識 ㊷自覚症状
㊸食物摂取状況

分析機材：NEC personal computer PC-8001

分析方法：多変量解析法

結果 現在はかかっていないが以前医師にかかった病気としては、①高血圧、②貧血、③神経痛の順位で、今現在医師の治療を受けている病気としては、①高血圧、②神経痛、貧血の順位であった。

さらに数量化による分析においては、全体の健康意識、食事摂取にたいする意識にウエイトがおかれ、自覚症状では肩こりや目の疲れなどの傾向が推測された。